

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																	
大原情報デザインアート専門学校	平成15年3月31日	中本 毎彦	〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-6-2 (電話) 06-4397-2458																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3291-0151																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																
工業	工業専門課程	メディア情報学科	平成6年文部科学省告示第84号	-																
学科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、情報工学及び情報技術並びにこれらのビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な産業人を育成することを目的とする。																			
認定年月日	平成 29年 2月 24日																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
	2年	1,700時間	920時間	200時間	480時間	0	0													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
80人	72人	18人	4人	1人	5人															
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優、良、可、不可の4種・定期試験																
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月上旬～1月上旬 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	所定の授業時間数以上履修し、かつ、その該当する授業科目について合格に達して卒業資格を得た者																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者への連絡および通知		課外活動	■課外活動の種類 各種クラブ活動の大会参加 ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) IT、ゲーム、CG、クリエイター、声優業界 株式会社トーセ、有限会社シーアンドエーデザイン、株式会社プロダクションエース、株式会社MC企画等		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																
	<table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>声優検定2級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>声優検定3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	色彩検定3級	③	16人	15人	声優検定2級	③	10人	1人	声優検定3級	③	10人	10人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																	
色彩検定3級	③	16人	15人																	
声優検定2級	③	10人	1人																	
声優検定3級	③	10人	10人																	
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成28年4月1日時点において、在学者77名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者72名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更		■中退率 6.5%																	
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人および保護者)																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ①試験による特別奨学生制度: がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ②資格・クラブ活動による特別奨学生制度: がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象)																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無)																			
当該学科のホームページURL	http://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/school/nanba/																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①クリエイター育成に尽力している企業等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②クリエイター業界での作品発表において表現技術やマルチメディア等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実務的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置付けについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高畑 一郎	大原学園 大原簿記学校	-	
堤 敦	大原学園 大原簿記学校	-	
中野 信男	大原学園 大原情報ビジネス専門学校	-	
羽深 義輝	大原学園 大原簿記学校	-	
児玉 紀裕	大原学園 大原法律専門学校	-	
村田 美保	大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校	-	
山本 浩之	大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校	-	
八木 信博	大原学園 大原法律専門学校	-	
若井 浩美	大原学園 医療大宮校	-	
杉山 雅信	大原学園 大原情報ビジネス専門学校	-	
青柳 六郎太	一般財団法人 ICT経営パートナーズ協会	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	①
小林 寛三	一般財団法人 ICT経営パートナーズ協会	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	①
松村 剛	一般財団法人 日本フィットネス産業協会	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	①
水口 錠二	一般財団法人 日本医療報酬調査会	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	①
嶋田 芳男	東京家政学院大学	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	②
大塚 良一	東京成徳短期大学	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	②
岡本 正義	岡本正義税理士事務所	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
加藤 善孝	優成監査法人	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
田口 操	田口パートナーズ会計	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
畑中 達之助	株式会社 さくらケーシーエス	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
今野 隆一	ジャパンシステム 株式会社	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
細田 昌幸	イオンリテール 株式会社	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
高橋 良	株式会社 ルネサンス	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
南方 慎治	株式会社 ルネサンス	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
千葉 真一	社会福祉法人 三井記念病院	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
後藤 康成	社会福祉法人 煌徳会	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
宍倉 一麻	社会福祉法人 八千代美香会 朋松苑	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
坂本 京子	社会福祉法人 幸友会 新鶴見にここ保育園	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
藤田 美樹	株式会社 こどもの森 まなびの森保育園勝どき	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
櫻本 正樹	東洋大学	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	②
鎌田 修広	株式会社 タフジャパン	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③

西山 賢太郎	株式会社 コナカ	平成27年4月1日～平成29年3月31日(2年)	③
及川 亞貴	日本学芸振興會	平成28年4月1日～平成28年5月31日(2カ月)	①
清水 郁郎	日本学芸振興會	平成28年6月1日～平成30年3月31日(2年)	①
八尾 一廣	株式会社MC企画	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
山本 利彦	株式会社ディープラス	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	③
西端 一晃	株式会社プロモ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
中本 每彦	大原学園 大原情報デザインアート専門学校	-	
宮路 信美	大原学園 大原情報デザインアート専門学校	-	
山本 省二	大原学園 関西圏就職本部	-	
藤川 宏明	大原学園 大原情報デザインアート専門学校	-	
川畑 増知	大原学園 大原情報デザインアート専門学校	-	
仁科 幸久	大原学園 大原簿記法律専門学校難波校	-	
一角 健	大原学園 大原簿記法律専門学校難波校	-	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年2回開催。 第1回:5月「前年度の教育成果の振り返りと今後の取り組み」 第2回:7月「今年度の取り組みに関する報告・課題整理、次年度以降の教育内容に関する見直し」 ※地方委員会と学園本部委員会は同日日程にて開催 (開催日時) 第1回 平成28年5月13日 15:30～17:00(地方委員会)、13:30～15:00(本部委員会) 第2回 平成28年7月15日 15:30～17:00(地方委員会)、11:00～12:00(本部委員会)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 委員会のご助言に基づき、下記のセミナー、研修を実施 ① 専門知識向上の一環として講演会を追加しDTPセミナーを実施 ② 有識者による教員向け研修「コンテンツ産業の現状と方向性」の取り組みを開始 ③ プレゼンテーション向上のため、カリキュラムにプレゼンテーション実施回数を増加 ④ 指導力向上の為、発声練習や効果を学ぶ研修を実施
--

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ① 工業分野における実習・演習は、企業等との連携の下、学内で行なう学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。 ② 企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。 ③ 企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。
--

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 各種職業実践演習科目の授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。 ① 実習授業内容構築へのサポート ② 当該実習授業における評価ポイントの確認 ③ 授業方法に関する教員への指導 ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マルチメディア演習</td> <td>マルチメディアを駆使し、活用することを目的とする。それぞれの専門分野にて用いられている技術や利用方法を学ぶ。学んだ知識を活かして作品制作を行い、最適にメディアを活用表現し発表を行う。</td> <td>日本学芸振興會</td> </tr> </tbody> </table>	科目名	科目概要	連携企業等	マルチメディア演習	マルチメディアを駆使し、活用することを目的とする。それぞれの専門分野にて用いられている技術や利用方法を学ぶ。学んだ知識を活かして作品制作を行い、最適にメディアを活用表現し発表を行う。	日本学芸振興會
科目名	科目概要	連携企業等				
マルチメディア演習	マルチメディアを駆使し、活用することを目的とする。それぞれの専門分野にて用いられている技術や利用方法を学ぶ。学んだ知識を活かして作品制作を行い、最適にメディアを活用表現し発表を行う。	日本学芸振興會				

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。 ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修 ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施 ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発	
(2) 研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 学芸振興會【メディア情報学科委員】 コンテンツ産業の現状と今後の発展について。特にゲーム・マンガ・アニメ・声優に関連する分野の今後の見通しについて。具体的には、今後上記の各分野を指導するにあたり、必要となる業界の最新の動向、今後の発展及び将来性についての知識の修得を図る。・・・平成29年3月17日 ②指導力の修得・向上のための研修等 株式会社MC企画【メディア情報学科委員】 プレゼンテーション時における表現力や発声、聴衆を魅了する振る舞いを向上させる。具体的には、プレゼンテーション時に、より高い好感度を与えるための、立ち居振る舞い、表情の作り方を習得し、発声練習等のトレーニング方法を理解し、自己表現力の高め方について知識向上を図る。・・・平成29年3月17日 藤木新生法律事務所【メディア情報学科委員】 プライバシー権、個人情報保護法について事例を元に正しく理解し、学生個人情報の取扱について学び、現場に活かせるように知識向上を図った。・・・平成29年3月18日	
(3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 株式会社MC企画【メディア情報学科委員】 コンテンツ産業の現状と今後の発展について。特にゲーム・マンガ・アニメ・声優に関連する分野の今後の見通しについて。具体的には、今後上記分野を指導するにあたり、必要となる業界の最新の動向、今後の発展及び将来性についての知識の修得を図る。・・・平成30年3月16日 ②指導力の修得・向上のための研修等 株式会社アウトプランニング【メディア情報学科委員】 「学生との信頼関係構築のためのコミュニケーション能力向上」というテーマで、研修実施及びシンポジウム参加を計画実施している。・・・平成29年8月2日	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針 当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。

(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会に当たり、卒業生の社会適応能力について多くの意見を頂いたため、コミュニケーション能力、組織への適応について、日々の学生指導においてこれまで以上に強く意識していくことを確認した。クラスでの担任の指導はもちろんのこと、全員参加の各種学校行事やクラブ活動を通じて、社会適応能力を高める環境を積極的に提供していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

委員

名前	所属	任期	種別
八尾 一廣	株式会社MC企画	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業委員
山本 利彦	株式会社ディープラス	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業委員
西端 一晃	株式会社プロモ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業委員

事務局

中本 每彦	大原学園	大原情報デザインアート専門学校	校長
宮路 信美	大原学園	大原情報デザインアート専門学校	事務局長
山本 省二	大原学園	関西圏就職本部	事務局員
藤川 宏明	大原学園	大原情報デザインアート専門学校	事務局員
川畑 増知	大原学園	大原情報デザインアート専門学校	事務局員
川上 譲司	大原学園	大原情報デザインアート専門学校	事務局員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/jissen/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/hvoka/>

授業科目等の概要

(工業専門課程メディア情報学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			漢字	日常的に利用する漢字能力を身に付けることを目的とする。 ビジネスで一般に使用される熟語は勿論のこと四字熟語、慣用句なども学ぶ。	1・2通	80			○		○		○		
○			ビジネス実務	基本的なビジネスマナーを身に付けることを目的とする。 企業人として、最低限身に付けていなければならない立ち振舞いなどの実践的なトレーニングを行う。	1・2通	160			○		△	○		○	
○			一般常識	日常的に利用する文章能力、一般常識知識力の向上を身に付けることを目的とする。 ビジネス文章の書き方、時事用語面接で問われる一般常識問題を演習を通して習得する。	1・2通	120			○	△		○		○	
○			ビジュアルコミュニケーション	図解表現の意義について学び、効果を確認表現できることを目的とする。 図や表のもたらす効果、対比、配置等を演習を通して習得していく。	1通	80			○		△	○		○	
○			コンピュータ基礎知識	コンピュータを操作して目的を達成する能力習得を目的とする。 コンピュータ関連の基礎用語、利用方法について学ぶ。	1通	80			○			○		○	
○			インターネット概論	インターネットの仕組みに関する基礎的な知識習得を目的とする。 活用事例や、活用方法も含めて統括的に学ぶ。	1通	80			○			○		○	
○			○A実習	コンピュータの基本操作、Officeソフトの基本操作を身に付けることを目的とする。 Windows特有の操作方法、Word、Excelの基本操作方法を学ぶ。	1通	80				△	○	○		○	
○			芸術概論(基礎)	芸術を幅広く理解することで創作活動に反映させることを目的とする。 文学、音楽、造形美術、演劇、舞踊、映画など多岐にわたる分野について実例より学ぶ。	1通	40			○			○		○	
○			芸術概論(応用)	芸術を幅広く理解することで創作活動に反映させることを目的とする。 現代における活動事例から創作アイデアをケーススタディで学び習得する。	2通	80			△		○	○			○
○			デザイン・表現演習	コンピュータを用いての表現演習、基本操作を身に付けることを目的とする。 PowerPointを用いて説得力のある表現、訴求力のある見せ方を実践しながら習得する。	1・2通	120			△		○	○		○	
○			マルチメディア概論	マルチメディアの理解を高め、活用方法についても学んで行くことを目的とする。 文字、画像、動画、音声など、様々な種類・形式の情報理解、複合的に扱うことができる知識の習得。	1通	40			○			○		○	

○		マルチメディア演習	マルチメディアを駆使し、活用することを目的とする。 それぞれのケースに合わせて、制作発表を行い、最適に駆使表現し発表を行う。	2通	80				○	○				○	○
○		プランニング基礎	与えられたタスクに対して、企画提案できる方法を学ぶ事を目的とする。 5W1Hをベースにタスク分析、情報整理、企画提案の手法を学んでいく。	2通	40			○	△	○				○	
○		プレゼンテーション概論	プレゼンテーションを基本から学び、練習を踏まえて実践できるようになる事を目的とする。 5W1Hをベースに準備し、組み立てる方法を学び、用途に応じたプレゼンテーションの違い等を学んでいく。	1通	40			○	△	○				○	
○		プレゼンテーション技法	より効果的な説得力のあるプレゼンテーションを身に付けていくことを目的とする。 プレゼン資料、演出、振る舞い等トータルに指導し、実践、評価を通してスキルアップしていく。	2通	80			△		○	○			○	
○		ゲームシナリオ演習	ゲーム制作において必要となるC言語の知識の習得を目的とする。 演習問題を解き、アルゴリズムの考え方を身につける。	1・2通	80			△		○	○				○
○		ゲームプログラミング概論	ゲーム制作において必要となるC++言語の知識の習得を目的とする。 オブジェクト指向の考え方を理解し、実践的なプログラミングまで行える知識を身につける。	1・2通	240			△		○	○				○
○		ゲームプログラミング実習	ゲーム制作に必要な技術の習得を目的とする。 C言語を用い2Dゲームの制作方法を学ぶ。	1通	200					○	○				○
○		ゲーム制作実習	ゲーム制作に必要な技術の習得を目的とする。 C++を用い3Dゲームの制作方法を学ぶ。	2通	200					○	○				○
○		ゲーム企画論	過去にヒットしたゲームのヒット要因について分析を行い、アイデアの出し方について学ぶ。 そのアイデアをいかに企画書にまとめるか、他人に伝わりやすい企画書の制作法を習得する。	1・2通	80			△		○	○				○
○		カラーコーディネート演習	カラーコーディネートに関する基礎的な知識習得を目的とする。 色の性質や効果、表現方法について学ぶ。	1・2通	80			○			○				○
○		デッサン	基本的な物の見方と基礎画力向上を目的とする。 単純形状のモチーフや異なる質感を持ったモチーフの表現手法を学ぶ。	1・2通	80			△		○	○				○
○		イラスト演習	目的に応じたキャラクターのデザイン能力の習得を目標とする。 効果的なデザイン画の制作方法を学ぶ。	1・2通	320			△		○	○				○
○		マンガ演習	マンガの描き方の習得を目標とする。 ペンの使い方からストーリーまで、マンガに必要なテクニックを学ぶ。	1・2通	320			△		○	○				○
○		CG実習	3DCGの制作技術の習得、作品制作を目標とする。 Soft Imageや3dsMAXの使用方法を学び、業界のニーズに合わせた作品制作を行っていく。	1・2通	400			△		○	○				○

○	キャラクターデザイン実習	2Dキャラクタ、3DCGの制作技術の習得、作品制作を目標とする。 2D表現、3Dキャラクタは2頭身から8頭身キャラクタ、ボーンを入れて可動するまで制作する。	1・2通	240	△	○	○	○										
○	映像編集基礎	映像編集の基礎技術の習得を目的とする。 Adobe AfterEffectsの基本操作を学ぶ。フライングロゴ、テロップ、2Dアニメ、特殊効果等を学ぶ。	1・2通	80	△	○	○	○										
○	アニメーション演習	アニメーションに関する基礎的な知識、技能習得を目的とする。 シナリオ、絵コンテ、コマ割り、シーン構成を実習を通じて学ぶ。	1・2通	80	△	○	○	○										
○	グラフィックデザイン応用	グラフィックデザイン制作での技術習得、訴求効果のある作品制作技術習得を目的とする。 Adobe Illustratorを用いてグラフィックデザインを制作。各種紙媒体の広告を学びながら制作する。	1・2通	320	△	○	○	○										
○	WEBデザイン応用	Webページ制作の技術、表現技術の習得を目的とする。 Adobe DreamWeaverを用いてWebサイトを制作。動きのあるサイト、マルチデバイス対応作品を制作する。	1・2通	320	△	○	○	○										
○	エディトリアルデザイン実習	エディトリアルデザインを基礎から学び、制作技術習得を目的とする。 Adobe InDesignを用いてパンフレット、雑誌の特集ページ等の作品制作を通して学んでいく。	1・2通	80	△	○	○	○										
○	デザインマーケティング	デザインマーケティングについての知識を得て作品制作における企画づくりに役立つ事を目的とする。 社会におけるデザインがもたらす効果と学び、広告やHP等の効果を経営的な観点から学ぶ。	1・2通	80	○	○	○	○										
○	日本語総合	日常的に利用する日本語能力を身に付け、音声会話上、必要な国語能力を習得する。	1・2通	80	○	○	○	○										
○	言語理論	言葉の成り立ちや意味を把握することにより、本質的部分を理解する。	1・2通	120		○	○	○										
○	発音概論	発音を通じて、母音・子音・アクセント等のメカニズムを身に付ける。	1・2通	200			○	○										
○	音声表現	発声の抑揚・喜怒哀楽を身に付けるとともに、自己表現力を磨く。	1・2通	240			○	○										
○	演技表現	演技・アフレコ等を通じて、身体・音声表現を習得する。	1・2通	160			○	○										
合計				37 科目	2,000単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	3期
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。</p> <p>2. 試験には定期試験、追試験および再試験等がある。追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。</p> <p>3. 追試験および再試験は、本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>本校に在学し、1,700時間の授業時間数以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験に合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。</p>	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。